

令和2年度事業計画及び収支予算の設定について

I 事業運営基本方針

農業を取り巻いては、農業従事者の高齢化による担い手不足、農産物価格の低迷による農業所得の伸び悩み、輸入農産物の増加による国内生産への圧迫など、引き続き厳しい状況が続いている。

国際情勢もTPPイレブン協定（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）が平成30年12月30日に、日EU経済連携協定（EPA）が平成31年2月1日にそれぞれ発効し、農産物輸入量の更なる増大が懸念される状況にある。

こうしたなか、農林水産業の成長産業への動きを促進する観点から、これまでの一律的な減反政策を見直した新たな米政策の3年目を迎えて、「売れる米作り」のもとに、各地で様々な動きが生じ、産地間競争が激しさを増すものと思われる。

また、国は、ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現するスマート農業の普及拡大を技術開発を図りながら強力に進めるなど、農業を巡る情勢が大きく変わろうとしている。

さらには、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、交流人口の低下が余儀なくされ、世界経済に大きな影響を及ぼしており、農業にも様々な面で影響が出始めている。

県内では（仮称）岩手県主要農作物種子条例の令和2年度内の制定を目指して作業が進められており、今後も優良種子の生産、供給に県の力強い関与が続けられるものと期待している。

このような環境にあって、当センターは農業生産の根幹となる優良種苗を一元的かつ安定的に生産供給するとともに、品質改善を推進することにより市場性を高め、それにより農家経済の安定向上と食料の安定供給に寄与するため、事業運営3カ年計画に基づきながら次のとおり事業を推進する。

なお、本事業の展開にあたっては、県並びに各農業団体と密接な連携を図り、需要を的確に把握するとともに、生産技術や方式の改善に努め、計画的で効率的な生産、供給を行うものとする。

1 需要に応じた種子・種苗の安定生産と不測の事態における迅速な対応

需要予測を的確に行い、需要を満たしつつも過剰在庫とならない生産量を確保するため、関係機関・団体と連携して生産技術の向上を図り安定生産に努める。種子生産地の状況を把握し、契約単収の引上げなど必要な対応を行う。

また、気象災害により種子が不足する事態に備え一定量の備蓄を行うとともに、普段から他県を含めた関係機関・団体との情報交換を密にして、不測の事態での種子の安定確保に努める。

2 優良種子・種苗の生産供給

安全安心な農産物の生産に資する優良種子を生産するため、種子・種苗に係る事故対応マニュアルを活用し、種子の品種特性や発芽能力の確認等により事故の未然防止に努めながら、優良種子・種苗の安定生産供給を図る。

また、県オリジナル品種の種子・種苗については、試験研究機関との連携により、需要に応じた生産供給に努める。

3 適正な農産物検査の実施

水稻、麦類、豆類の種子生産について、関係機関と連携し立毛段階や調製作業等においてきめ細かな指導を計画的に行うとともに、適正な検査を実施する。

4 適正な法人経営

公益法人における公益目的事業の収支相償や公益目的比率の確保、収益事業における適正な収支などを念頭におきながら、事業継続の安定性が確保される経営を目指す。

そのために、業務の効率化やコスト改善に対する職員の意識を高めるとともに、「役職員行動規範」に則した活動により、社会から一層信頼を得られる組織として、これまでも増して適正な運営ときめ細かなサービスの提供に努めるものとする。

また、中長期的な事業運営の安定性を確保する観点から、公益目的資産取得に係る計画的な資金造成や収益事業における新たな経営資源の開拓を進めるとともに、令和2年中に満期を迎える長期預り金3億円の適切な運用を図る。

II 事業計画

A 農産種子事業（公益目的事業）

1 農産種子対策

(1) 農産種子の計画的生産

事前に申し込まれた需要数量を基本に、従来品種から新品種への切り替え需要の増減や、経営所得安定対策等の諸情勢を勘案し、関係機関・団体と協議の上、採種ほ場の品種配置や面積を確定し計画生産を行う。

麦類種子は「銀河のちから」から「ゆきちから」にシフトさせ、豆類種子は概ね前年並みの種子生産ほ場を設置する。

【種子生産計画】

(単位：kg)

| 品 目 | 生 産 計 画 | 前 年 計 画 | 前年対比(%) |
|--------|-----------|-----------|---------|
| うるち | 1,571,260 | 1,579,660 | 99 |
| もち | 148,000 | 148,000 | 100 |
| 飼料用米 | 111,800 | 106,600 | 105 |
| 水 稻 計 | 1,831,060 | 1,834,260 | 100 |
| 大 麦 | 2,000 | 2,000 | 100 |
| 小 麦 | 303,900 | 276,300 | 110 |
| 大 豆 | 115,330 | 116,970 | 99 |
| 小 豆 | 180 | 180 | 100 |
| そば・雑穀類 | 10,000 | 10,599 | 94 |

※ 大豆、小豆、そば・雑穀類は暫定数値である。

※ 生産計画は使用予定備蓄種子を含む。

(2) 種子事故の防止対策

生産ほ場の団地化や麦及び大豆採種ほ場の輪作を推進するとともに、水稻採種ほ場の管理状況の点検を定期的を実施する。

また、イネばか苗病対策については採種ほ場周辺の種子消毒剤が化学合成農薬から生物農薬の体系になるため、引き続き関係機関の指導と団体の協力を得て、採種ほ場周辺での発生防止や巡回によるチェックに取り組む。

種子生産や乾燥・調製などの日常作業管理やDNA鑑定の実施などによりコンタミ防止チェック体制の充実を図る。

(3) 農産種子供給対策

水稻は主食用米の需要が減少傾向にある中で、当初予約注文だけでは種子需要の変動を捉えきれないことから、関係機関・団体と連携して県外を含めきめ細かな情報収集に努め安定供給を行う。

種子更新率が水稻に比べやや低い麦・大豆については、品種の需要動向も踏まえながら種子更新の向上を推進する。

2 品質改善対策

(1) 産米品質改善対策

高品質・良食味の「いわて純情米」の安定供給を推進するため、品種配置及び栽培管理の徹底について、関係機関・団体と連携し、次の諸対策を取り進める。

① 食味の安定向上等に向けた目標

| | | | |
|--------------|-----|---|----|
| ・ 1等米比率 | 95 | % | 以上 |
| ・ 整粒歩合 | 80 | % | 以上 |
| ・ 種子更新率 | 100 | % | |
| ・ 玄米タンパク質含有率 | 6.8 | % | 以下 |

② 安全出穂期を考慮した適品種作付け指導

③ 適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底

④ 技術対策諸会議の開催

⑤ 技術資料等の作成、配布

⑥ 消費地へのPR（「いわて純情米」パンフレットの作成、配付）

(2) 麦類、大豆等品質改善対策

経営所得安定対策の見直しによる国産麦・大豆の生産拡大への対応や実需者ニーズにあった商品性の高い麦・大豆生産に向け、下記の品質改善目標と種子更新目標の達成に取り組む。

① 優良種子の生産、供給

② 適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底

③ 品質改善目標

| | | | | |
|--------|----|-------|----|-----|
| ・ 適正水分 | 小麦 | 12.5% | 大豆 | 13% |
| ・ 整粒歩合 | 小麦 | 80% | 大豆 | 85% |
| ・ 1等比率 | 小麦 | 80% | 大豆 | 50% |

④ 種子更新目標

| | | | | |
|---------|----|-------|----|-------|
| ・ 種子更新率 | 小麦 | 75%以上 | 大豆 | 70%以上 |
|---------|----|-------|----|-------|

3 種子需給調整対策

(1) 種子備蓄対策

水稻種子については県オリジナル品種を中心に約100ト、天候の影響を受けやすい麦類種子は約30ト、需要変動が出やすい豆類種子は約1トの備蓄計画とし、緊急時の安定供給に備える。

4 種子事故防止対策

(1) 採種ほ場病害対策

水稻採種ほ場のイネばか苗病対策として育苗期や本田期における採種ほ場周辺を巡回点検する経費を補填するとともに、細菌病対策についても採種ほ場と連携して万全を期し、種子品質の安定化を推進する。

(2) 異品種混入防止対策

育苗から収穫乾燥・調製まで様々な段階での巡回確認・指導を行いコンタミ防止に努めるとともに、種子に異品種の混入がないことを確認するためDNA鑑定を実施する。

B 園芸種苗事業（収益事業1）

1 果樹苗木対策

りんご苗木の生産については、需要の多い県オリジナルりんご品種「紅いわて(岩手7号)」や「ふじ」などの苗木を直営生産で、利用許諾のない品種等は他県苗木業者への委託生産で対応する。

気象変動や生育に応じた栽培管理を適切に行い、苗木と台木の商品化率の向上を図るとともに、関係機関及び団体と連携して、果樹苗木の改植事業に取り組む各産地の品種動向の収集に努め、計画的な苗木供給を行う。

苗木は農家毎の個別梱包での出荷対応を継続し、各農協の仕分け作業の軽減を図る。

【供給計画】

(単位：本)

| 種類 / 品種 | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|------------|--------|--------|-----------|-----------|
| き お う | 1,200 | 1,500 | 80 | 133 |
| さ ん さ | 300 | 300 | 100 | 175 |
| つ が る | 800 | 800 | 100 | 61 |
| 紅いわて(岩手7号) | 4,000 | 2,500 | 160 | 152 |
| ジョナゴールド | 1,900 | 1,100 | 154 | 123 |
| 大 夢 | 100 | 200 | 50 | 142 |
| ふ じ | 8,000 | 7,500 | 105 | 118 |
| シナノゴールド | 1,000 | 1,500 | 66 | 51 |
| は る か | 2,000 | 1,500 | 133 | 128 |
| 雪 い わ て | 200 | 100 | 200 | 714 |
| そ の 他 | 3,500 | 6,500 | 61 | 137 |
| りんご苗木合計 | 23,000 | 23,500 | 97 | 117 |
| うちわい性台苗木計 | 22,500 | 23,000 | 100 | 122 |
| うち丸葉台苗木計 | 500 | 500 | 100 | 60 |
| りんご台木 | 6,900 | 7,400 | 86 | 105 |
| 一般果樹苗木 | 9,050 | 8,050 | 112 | 133 |
| 景観形成緑化花木苗木 | 50 | 50 | 100 | 144 |
| 苗木総合計 | 39,000 | 39,000 | 100 | 120 |

2 花き種苗対策

(1) りんどう種苗

種子系りんどうは、親株管理を徹底し、優良種子の確保と安定供給を図る。県オリジナル新品種の親株を定植し採種の準備を始める。

栄養系りんどうは、新たに県オリジナル八重咲き新品種の培養生産に取り組む。また、地域開発品種の受託生産を継続し、産地の動向に対応した苗生産体制の充実を図る。

【供給計画】

(単位 種子系：ml、栄養系：本)

| 品 目 / 品 種 (商標、系統) | | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|-------------------|-----------------------|--------|--------|-----------|-----------|
| 早 生 種 | いわて VEB6 号 (いわて夢あおい) | 46 | 39 | 118 | 58 |
| | キュースト | 2 | 3 | 67 | - |
| | いわて VEB-7 号 (いわて夢ぎんが) | 13 | 12 | 108 | 62 |
| | マシリィ | 4 | 18 | 22 | 67 |
| | マジエル | 12 | 38 | 32 | 26 |
| | いわて EB-1 号 (恋りんどう) | 53 | 70 | 76 | 50 |
| | いわて EB-2 号 | 45 | 65 | 69 | 150 |
| | いわて EB-3 号 (新規) | 80 | - | - | - |
| 早 生 種 小 計 | | 255 | 245 | 104 | 88 |
| 中 生 種 | いわて | 0 | 2 | 0 | 0 |
| | いわて MB-2 号 | 15 | 9 | 167 | 100 |
| | 中 生 種 小 計 | | 15 | 11 | 136 |
| 晩 生 種 | ジョバンニ | 3 | 2 | 150 | 150 |
| | いわて LB-3 号 (いわて夢のぞみ) | 67 | 40 | 168 | 77 |
| | いわて LB-4 号 | 6 | 15 | 40 | 75 |
| | いわて LB-5 号 | 55 | 52 | 106 | 98 |
| | いわて LB-6 号 | 12 | 30 | 40 | 109 |
| | いわて夢みのり (いわて LB-2 号) | 2 | 12 | 17 | - |
| 晩 生 種 小 計 | | 145 | 151 | 96 | 88 |
| 極 晩 生 種 | いわて夢みつき (いわて VLB-1 号) | 7 | 8 | 88 | 350 |
| | アルタ | 17 | 20 | 85 | 94 |
| | 極 晩 生 種 小 計 | | 24 | 28 | 86 |
| 鉢 物 | いわて乙女 | 155 | 135 | 115 | 78 |
| | 鉢 物 小 計 | | 155 | 135 | 115 |
| 種子系りんどう 合 計 | | 594 | 570 | 104 | 85 |
| 鉢 花 | ももずきんちゃん | 2,000 | 1,700 | 118 | 105 |
| | 八重咲き品種 (新規) | 2,000 | - | - | - |
| 受 託 品 種 小 計 | | 55,700 | 56,200 | 99 | 92 |
| 栄 養 系 りんどう 合 計 | | 59,700 | 57,900 | 103 | 96 |

(2) イブキジャコウソウ種苗

「多面的機能支払交付金」等を利用し活動に取り組む組織を中心に促進を図る。

また、国事業を活用して普及拡大を図るとともに、現地実証に取り組む営農組織等に出前技術指導を行う。

【供給計画】

(単位：本)

| 品 目 | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|--------------|--------|--------|-----------|-----------|
| イブキジャコウソウ | 35,000 | 28,000 | 125 | 89 |
| 参考) 想定面積 (㎡) | 5,600 | 4,480 | 125 | 89 |

(3) 薬用植物種苗

生薬会社との薬用植物種苗生産委託契約に基づき、安定供給と生産技術の向上に努める。また、数量・品目拡大の可能性を検討する。

【供給計画】

(単位：本)

| 品目 | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|------|-------|-------|-----------|-----------|
| 薬用植物 | 2,600 | 1,000 | 260 | 260 |

3 野菜種苗対策

(1) 栄養繁殖系野菜種苗

いちご種苗については、需要が減少してきていることから、産地需要動向の把握に努め、受注生産と作業の効率化を図り、低コスト生産に努める。また、出荷前の「炭疽病」の簡易検定や栽培管理の徹底を行い、優良種苗の安定生産に取り組む。

にんにく種苗は取り次ぎ供給とする。

【供給計画】

(単位 いちご：株、にんにく：kg)

| 品目 / 品種 | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|---------|-------|-------|-----------|-----------|
| 北の輝 | 700 | 1,100 | 64 | 115 |
| さちのか | 1,000 | 800 | 125 | 70 |
| 宝交早生 | 300 | 300 | 100 | 174 |
| その他 | 3,000 | 5,820 | 52 | 61 |
| いちご苗 合計 | 5,000 | 8,020 | 62 | 70 |
| にんにく種子 | 50 | 150 | 33 | 167 |

(2) 種子繁殖系野菜種苗

需要に応じた供給を行う。

【供給計画】

(単位 カボチャ：本、はるの輝：ml)

| 品目 / 品種 | 供給計画 | 前年計画 | 前年計画比 (%) | 前年実績比 (%) |
|-------------|-------|-------|-----------|-----------|
| カボチャ / 南部一郎 | 330 | 330 | 100 | 98 |
| なばな / はるの輝 | 2,500 | 2,650 | 94 | 134 |

C 農産物検査事業（収益事業2）

立毛中から採種ほ場の生育状況を確認し、産地別、品種別にきめ細かに調製作業の指導を行うとともに、適正検査を実施する。

また、農産物検査員育成研修に参加するなど、新たな農産物検査員の育成に取り組む。

【種子検査計画数量】

（単位：数量 t）

| 品目 | 検査計画数量 | 検査場所 |
|----|--------|-----------------------|
| 水稲 | 1,800 | JA 新いわて岩手町種子センター 他6ヶ所 |
| 麦類 | 260 | 農事組合法人胡四王みらい 他1ヶ所 |
| 豆類 | 105 | JA 新いわて軽米ライスセンター 他1ヶ所 |

D 管理運営

（1）健全経営

担い手の高齢化など農業生産現場の厳しい状況が続く中、今後の種子種苗の需要動向を見極めながら、平成30年度に策定した事業運営3カ年計画（平成30年～平成32年）を基本に、農業を取り巻く情勢に柔軟に対応し、業務の効率化やコスト低減に取り組むとともに、職員の意識改革や作業員の就業意欲の向上を図り健全経営に努める。

公益目的事業においては公益性の認識のもと収支相償に配慮しながら経営にあたり、収益事業では事業収入の安定確保と経費の効果的執行により単年度黒字を確保し、新たな経営資源の定着にも力を入れる。

また、満期を迎える長期預り金の3億円は、安全性を最優先に運用を図り、特定費用準備資金等取扱規程による建物資産取得資金の積立に対応した収益確保に努める。

（2）適正な管理運営

公益社団法人として、関係法令や諸規程に基づき、各種手続きなど適正な管理運営を行うと共に、事業運営などをホームページなどで適切かつ公正に情報を開示する。

なお、（仮称）岩手県主要農作物等種子条例の制定にあたり、岩手県県議会の検討会議等に協力する。

（3）人材育成

職員の能力開発及び情報処理に関するセミナーの受講、種苗の安定生産に関する技術研修への参加および職員研修会を開催するとともに関係機関・団体が主催する研修会等へ計画的に参加し、事業環境の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。

また、引き続き人事評価制度を活用しながら、職員の就業意欲と能力の向上を図る。